

### 阿仁の特産品はいかが

#### マタギの里秋まつり

マタギの里秋まつり実行委員会（柴田誠会長）主催による「第3回マタギの里秋まつり」が10月23日、「道の駅あに」を会場に開催されました。雨天にもかかわらず市内外から多くの人が訪れ、秋の味覚などを満喫しました。道の駅施設内には、農家の皆さんが丹精こめて作った農林産物が展示され、參觀者は品質の高い力作を熱心に見入っていました。直売コーナーでは、特産品の乾燥ゼンマイ、山ウドウ、リンゴ、取れたてのキノコや加工品の販売、食事コーナーでは、くま鍋やだまっこ汁、みそ付けタンポなどが販売され、阿仁ならではの特産品に大好評をいただきました。



一味違う阿仁の特産品が飛ぶように売れた直売コーナー



昔話や民話をとおして交流する「話しっこの会」の活動

### 『昔話や民話』を聞いてください

#### 「読み聞かせ」ボランティア活動

阿仁地区「話しっこの会（伴朝子会長）」会員10人が地域の福祉施設や保育園、小学校などに「昔話や民話」の読み聞かせのボランティア活動を行っています。

この会は、本好き、語り好きな人たちの集まりで、毎月第2火曜日に公民館で例会を開き、滑舌練習や、お互いに本の読み聞かせをするなど、研修にも力を入れています。

「お年寄りは読み聞かせが始まると昔を思い出して耳を傾けてくれます。保育園児や小学生は真剣な表情で物語の中にとけ込み、期待の眼差しが強く伝わってきます。そんなときはやはり甲斐を感じます」と、活動の感想を語ってくれました。

### 跳んで跳んで、連続169回

#### ながなわとび大会（合川地区）

北秋田市ながなわとび大会（合川地区体育指導委員会主催）が11月4日、合川体育館で開催され、9チームが出場し、記録に挑戦しました。

大会は、長さ10mの縄を2人が回し、10人が跳んでその回数を競います。試技は3回、そのうち、回数の多い2回の合計で順位が決められます。競技では、どのチームも息をピッタリ合わせ、多くの回数を跳ぶと、家族や観客からたくさんのお声があがっていました。

結果は、上杉体協Aが3回目の試技で逆転となる169回を跳び、合計234回で優勝。2位は川井イケメンズの229回、3位は駅前Aチームの86回でした。



チームワークが重要な、ながなわとび大会

### ふるさとへの思いを馳せる

#### 第19回東京ふるさと森吉会総会

北秋田市となって初の東京ふるさと森吉会（松岡利男会長）の第19回総会が11月6日、東京のアルカディア市ヶ谷で開催されました。総会に先立って行われた懇談会では「合併して森吉町はなくなったが、今後も旧町ごとのふるさと会を存続させたい」との意見に、市長は「存続した上で、新たに北秋田市としての会を組織しては」と提案されました。

続いて行われた総会・交流会には、首都圏に住む会員約160人が参加し、なつかしいふるさとのお話やお互いの近況報告をし合うなど、親睦を深めました。また、おやき、いぶりがっこ、きりたんぼなどのふるさとの特産品も販売され、好評を博しました。



最後に出席者全員で「ふるさと」を合唱し、来年の再会を約束

### 懐かしい出会い、ふるさとの味

#### 第18回東京鷹巣会総会

首都圏在住の旧鷹巣町出身者でつくる東京鷹巣会（菊地靖孝会長）の第18回総会と懇親会が10月30日、東京・九段のホテルグランドパレスで開催され、会員約150人が出席し、ふるさと談義に花を咲かせました。

今回は「懐かしい出会い・語り合い」そして新しい発見」をテーマに開かれ、菊地会長が「新生北秋田市の限らない発展と、併せて合併前の森吉、合川、阿仁各地区の発展を祈念します」とあいさつ。懇親会では、ふるさとの味覚を味わいながら、再会を喜び、アトラクションには鷹巣町商工会女性部による踊りが披露されると、会員も踊りの輪に加わり、会場は和やかな雰囲気になりました。



新生北秋田市の発展に願いを込めた東京鷹巣会

### 北秋田市のCMが放送されます

#### あきたふるさと手作りCM大賞2005

A B秋田朝日放送が主催している「あきたふるさと手作りCM大賞2005」の審査会・授賞式が11月16日、秋田市の秋田テルサで行われ、北秋田市もCM製作に関わったスタッフらが審査会に臨みました。

このコンテストは、応募した市町村が観光名所や物産の紹介、ふるさとへの思いなどをビデオで自由に企画・編集し、30秒のCMとして「わがまち」をPRするものです。

市では、屋外ロケを中心に撮影を行い、観光の見所などをコミカルに紹介しています。この模様は、12月11日、午後6時58分から1時間番組として秋田朝日放送で放送されます。



審査会でCM製作の様子を紹介するスタッフ